

施策評価（令和5年度）

戦略4 未来創造・地域社会戦略			
目指す姿3 女性・若者が活躍できる社会の実現			
幹事部局名	あきた未来創造部	担当課名	次世代・女性活躍支援課
評価者	あきた未来創造部長	評価確定日	令和5年7月31日

1 施策（目指す姿）のねらい（施策の目的）

女性や若者が、様々な分野において、その個性と能力を十分に発揮できる社会の実現を目指します。

2 施策の状況

2-1 成果指標の状況及び定量的評価

	施策の方向性、指標名(単位)	年度	2019 (R元)	2020 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	直近の 達成率	判定	備考
①	【施策の方向性①】 「男は仕事、女は家庭」という考え方に 反対する人の割合(%)	目標			65.0	66.0	67.0	68.0	103.8%	a	
		実績	60.3	63.0	67.5						
	出典:県「県民意識調査」	達成率			103.8%						
②	【施策の方向性②】 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動 計画策定企業数(従業員数100人以下の企 業)(社)	目標			350	400	450	500	106.9%	a	
		実績	172	241	374						
	出典:厚生労働省「都道府県別女性活躍推進法 に係る一般事業主行動計画策定届出状況」	達成率			106.9%						
③	【施策の方向性②】 民間事業所の管理職(課長相当職 以上)に占める女性の割合(%)	目標			20.5	21.0	22.0	23.0	102.9%	a	
		実績	18.6	19.3	21.1						
	出典:県「労働条件等実態調査」	達成率			102.9%						
④	【施策の方向性②】 民間事業所における男性の育児休 業取得率(%)	目標			13.0	14.0	15.0	16.0	137.7%	a	
		実績	8.8	10.7	17.9						
	出典:県「労働条件等実態調査」	達成率			137.7%						
⑤	【施策の方向性③】 若者による秋田の活性化や地域貢 献に資する取組件数(件)	目標			5	5	5	5	80.0%	c	
		実績	-	1	4						
	出典:県調べ	達成率			80.0%						

※ 指標の判定基準

a: 達成率 \geq 100% b: 100% $>$ 達成率 \geq 90% c: 90% $>$ 達成率 \geq 80% d: 80% $>$ 達成率 \geq 70% e: 70% $>$ 達成率
n: 実績値が未判明

定量的評価結果	計算式
3.60 (A相当)	① a判定 × 4個 = 16点 ④ d判定 × 0個 = 0点
	② b判定 × 0個 = 0点 ⑤ e判定 × 0個 = 0点
	③ c判定 × 1個 = 2点
	①~⑤の合計 18点 ÷ 5個(判明済み指標) = 3.60

※ 指標の判定基準 a:4点 b:3点 c:2点 d:1点 e:0点

※ 成果指標において実績値が未判明となった指標がある場合には、それを除いて平均点を算出する。

※ 定量的評価の判定基準

A相当:平均点が3.6点以上 B相当:平均点が3.2点以上3.6点未満 C相当:平均点が2.8点以上3.2点未満
D相当:平均点が2.4点以上2.8点未満 E相当:平均点が2.4点未満

2-3 主な取組状況とその成果

【施策の方向性① 男女共同参画の推進】

- 男女共同参画に対する県民の関心と理解を深めるため、男女共同参画推進月間（6月）に県民向けのイベント「ハーモニーフェスタ」を開催し、男女共同参画に精通した外部講師による基調講演やパネルディスカッションを通じて県民の意識醸成を図った。
- 市町村や企業、学校など地域での男女共同参画の活動促進のため、10月に県内の男女共同参画センターやあきたF・F推進員、女性人材登録名簿登録者を対象とした全県の連携会議を開催し、有識者による講座や分科会等を通じた意見交換を実施するなど、相互連携のためのネットワーク構築、強化を図った。

【施策の方向性② あらゆる分野における女性の活躍の推進】

- 女性の挑戦や活躍への意識改革を促進するため、相互研鑽の場を提供する官民一体のラウンドテーブルを、女性活躍推進プロジェクトチーム設置（令和3年12月）以降6回開催し、講演会に延べ2,663名、ワークショップに延べ206名が参加した。その結果、将来のキャリアアップに前向きな意識を持った参加者の割合が増加した（令和4年1月：46.4%→令和4年12月：66.6%）。
- 女性活躍の推進に積極的に取り組んでいる企業に対し、補助金・支援金により職場環境の整備等への助成を行った結果、厚生労働大臣が認定するえるぼし認定企業が増加したほか、女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画策定企業が増加し、職場環境整備の意欲向上につながった（えるぼし認定：6社→8社）。
- 企業経営者の理解促進を図るため、女性の活躍推進に取り組む企業12社を取材し、テレビ番組など様々なメディアを活用して好事例の情報発信を行ったほか、各組織における女性活躍推進を目的として、男性リーダーによる基調講演やパネルディスカッションなどの啓発イベントを開催した。
- 女子学生が県内の女性活躍を推進する企業30社を訪問し、企業の取組や女性従業員のライフスタイルなどの記事を県のウェブサイトやSNSに掲載することで、女性学生目線の企業の情報や秋田で働く魅力を発信した結果、「あきた女性の活躍応援ネット」のアクセス数は大幅増となっている（令和4年10月：3,773件→令和5年3月：10,318件）。
- 多様な働き方や従業員の学び直しなどをテーマとした、意識啓発セミナー（63社）やワークショップ（延べ23社）の開催、専門家による伴走支援（9社）のほか、取組事例等を紹介するセミナー（67社）を行うことで、働きやすい職場づくりに向けた企業の意識改革や理解促進につながった。

【施策の方向性③ 若者のチャレンジへの支援】

- 高校生等が企画する地域活性化に向けた取組の実現を支援し、若いうちから主体的に地域活動に関わる機会を創出した（活動経費支援件数11件）。
- 若い世代が主体となった地域づくり活動の実践や、具体的な活動アイデアの創出を促進するため、若者を対象にした先輩活動者による講義やディスカッションを行う交流会等を開催したほか、活動案の企画・検討や意見交換の場となる専用SNSサイトを開設し、地域づくり活動に向けた取組を支援した（参加者50人、交流会4回）。
- 若者ならではの斬新なアイデアや柔軟な発想を生かした新たな手法によるアプローチ、これまで取り組まれてこなかった分野への挑戦等を、資金面はもとより、専門家からのアドバイス等により一貫して支援し、若者の活躍を促進した（応募者30件・補助金交付決定件数5件）。
- 青少年問題について考え、行動する契機となるよう、青少年健全育成秋田県大会及び青少年の非行・被害防止標語コンクールを開催した。また、無業の若者の職業的自立に向けた支援を実施し、あきた若者サポートステーションでは若者65人の進路決定に結び付けたほか、県内各地に設置している「若者の居場所」では、社会的自立に困難を抱える若者やその家族が社会貢献活動に参加することなどにより進学・就職等のきっかけづくりを行っており、社会的自立に向けたステップとして165人がボランティア活動に参加した。

3 総合評価と評価理由

総合評価	評価理由
A	<p>成果指標の達成率を基にした定量的評価は3.60で「A相当」であることから、総合評価は「A」とする。</p> <p>【定性的評価として考慮した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・

4 県民意識調査の結果

質問文		女性や若者が様々な分野において、その能力や個性を発揮して活躍している。					
満足度		調査年度	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度	肯定的意見		6.2%				
	十分 (5点)		0.9%				
	おおむね十分 (4点)		5.3%				
	ふつう (3点)		39.8%				
	否定的意見		41.6%				
	やや不十分 (2点)		23.4%				
	不十分 (1点)		18.2%				
	わからない・無回答		12.5%				
	平均点		2.40				

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 主な課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題	今後の対応方針
①	○ 県民意識調査では、「男は仕事、女は家庭」という考え方に対して反対する人の割合が増加してきており、固定的な性別役割分担意識は、徐々に解消されてきているが、いまだ性差による偏見や格差が存在している。	○ 県民向けにフォーラムを開催し啓発を図るほか、地域における様々な政策・方針決定過程への女性参画拡大を目的として、自治会役員や地域活動に携わっている方向けの講座等を開催し、地域の女性リーダーの育成及びその気運の醸成を図る。
②	○ 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画策定企業数は増加しており、企業の女性活躍の取組は広がっているが、女性管理職割合は伸び悩んでおり、女性の意識向上や経営者の理解促進を一層進めていく必要がある。	○ 女性の挑戦や活躍への意識改革を推進するため、官民一体のラウンドテーブルを継続して開催するほか、新たに、男性の育休取得を促進するためのイベント開催、企業経営者層と現場推進責任者層に対する研修会を実施し、理解の促進と気運の醸成を図る。
③	○ 人口減少、少子高齢化の進行による地域の活力低下や、地域活性化の軸となるプレイヤー不足、主たる活動団体のメンバーの固定化・高齢化などにより、地域づくり活動の担い手の世代交代が進まず、活動が停滞している。 ○ 新型コロナウイルス感染防止のため外出を控えていた社会的自立に困難を有する若者が、自宅に引きこもる傾向に拍車がかかっているおそれがある。	○ 若い世代が主体となった地域づくり活動や地域活性化に向けた取組を促進するため、それぞれの思いを発表・共有する場を設けるとともに、斬新なアイデアを持つ若者を掘り起こすためのPRや、アイデアに実現性を伴わせるための練り上げ、活動の受け皿となる団体の組成を支援する。 ○ あきた若者サポートステーションや「若者の居場所」の一層の周知に努めるとともに、各支援団体や関係機関と密接に連携して適切な支援に結びつける。

6 政策評価委員会の意見

自己評価「A」をもって妥当とする。
